

東京ヴィヴァルディ合奏団

～風の四季彩～

(ゲスト) フルート: 工藤重典

ベルガー ●弦楽のための夜曲

ヴィヴァルディ

●弦楽のための協奏曲 ハ短調 RV119

コース ●ウィントン組曲

ヴィヴァルディ ●フルート独奏による「四季」全曲

4月25日(日) 14:00 第一生命ホール

工藤重典

指定席: パルコニー席 ¥5,500 S ¥5,000 自由席: A ¥4,000

指定席・自由席: 高校生まで ¥2,000 協力: 第一生命ホール

チケット: 電子チケットのみ、ローソンチケット、CNプレイガイド、他

東京ヴィヴァルディ合奏団 03-6277-8450 www.vivaldi.jp



ロンドンを拠点に活躍する若きヴィルトゥオーゾ 待望の日本公演

田山正之のピアノリサイタル

ベートーヴェン

●ソナタ 第8番 ハ短調 op.13 「悲愴」

武満敏 ●閉じた日一進口修造の追憶にー

シューマン ●ソナタ 第2番 ト短調 op.22

ラフマニノフ ●練習曲集「音の紋」 op.39



4月25日(日) 14:00

東京文化会館・小

全自由席 ¥4,000 マネジメント: KAJIMOTO

カジモト・イープラス 0570-06-9960

http://kajimotoeplus.com/

対象としたもので、5月〜7月までは全国10箇所です。11月〜12月に東京で全国大会が行なわれることになる。併せて注目しておきたい。(コンクールの問合せは、ヨロツバピアノ協会 ☎03-3434-0712 860、www.yorotsuba-piano.com) リサイタル曲目はパッパ/バルティータ第2番、ブラームス/ピアノ小品集、ベートーヴェン/デアベリのワルツの主題による33の変奏曲、4/24、16時、浜離宮朝日ホール、ミリアンコンサート協会 (☎03-3501-5638)

◆ 横山奈加子 & 高橋礼恵 デュオ・リサイタル

ヴァイオリニストの横山奈加子とピアノの高橋礼恵は、2年前からデュオを組み、今回4回目のリサイタルを迎える。

二人共、桐朋学園大学音楽学部を卒業。横山は同大学ディプロマコースを修了、高橋はドイツ国立ベルリン芸術大学に留学し、それぞれコンクール歴などでも輝かしい実績を持っている。

デュオを組むきっかけとなった

のは、今回のリサイタルの窓口になって、「スピカ」からの紹介ということだが、「初めて二人でリサイタルをした時、彼女の持つ音楽性、音色、テクニクに一耳惚れ?」して、これからのいろいろな曲にチャレンジしていきたい!とイメージが膨らみました。横山は高橋の印象を語る。また高橋も「普段は私にとってほんわかしたお姉さんという存在なのですが、とても熱くパワフルな一面を見せてくれることが刺激になっている」と相性の良さを語った。

全曲演奏を目標に毎回のプログラムには必ず入れているというベートーヴェンのソナタは今回は4番がのり、その他にR・シュトラウスやメシアン等が並ぶ。「ベートーヴェンでは荒々しいまでの情熱、R・シュトラウスでは交響詩のような壮大で目眩めく夢の世界。華やかで香り高い世界に挑戦したいです。メシアンはあまり演奏される機会のない作品ですが、独特の美しさに溢れた魅力的な小品。単純なテーマからエネルギーが溢れ出し、昇華する様子を聴いて頂けたらと思います。」

デュオは2人にソリストの表現力が求められます。双方の個性をぶつけ合いつつも調和するのが理想ですが、その場でインスピレーションを与え合う一瞬が本当にエキサイティングで、今回もそんな瞬間に出会えることを楽しみにしています。(横山・高橋)

フレッシュな二人のわくわく感が伝わり、どんな音楽が展開されるリサイタルとなるのか楽しみだ。♪曲目: メシアン/主題と変奏、グイターリ/シヤコンヌ (Vnソロ)、パッパ/ブゾーニ/シヤコンヌ



高橋礼恵



横山奈加子

新井啓泰 ピアノ リサイタル

2017年

ベートーヴェン

- ピアノ・ソナタ 第3番 / 長調 作品2-3
- ピアノ・ソナタ 第8番 / 短調 作品13「悲愴」

ショパン

- 舟歌 嬰へ長調 作品60
- ピアノ・ソナタ 第3番 / 短調 作品58

(C)OGAHARA

4月27日(火) 19:00 東京文化会館・小

全自由席 ¥3,000

オフィス・ムジカール 050-3089-8306

ロベルト・ホルトルツィ リサイタル

ピアノ：峯川知子

- 1部 スカラッチェ ●私を信つけるのをやめるか
ベルゴレーツ ●ニーナ ベッリーニ ●優雅な月よ
ドナウディ ●ああ愛する人の 他

2部 ヴェルディ

- オペラ「エルナーニ」より「若き日日よ」
- オペラ「リゴレット」より「悪魔め、鬼め」
- オペラ「Fen-カルロ」より「私の最後の日」他

4月26日(月) 19:00 東京文化会館・小

全席自由 ¥5,000 主催：サルパベルカント

後援：イタリア文化会館 協賛：(株)新日本印刷 協力：(株)P&S
ミリオンコンサート協会03-3501-5638



田山正之

これまで園田高弘賞ピアノコンクール、英国バーミンガム国際ピアノコンクールでそれぞれ1位を獲得。現在はロンドンの主要ホールを中心に活躍の場を広げている。昨年末にはラフマニノフのエチュー

田山正之 ピアノ・リサイタル

(ピアノ)、ベートーヴェン/ヴァイオリンとピアノの為のソナタ第4番イ短調、R・シュトラウス/ヴァイオリンとピアノの為のソナタ変ホ長調
♪4/17、14時、JTアートホール
♪スビカ ☎03-3978-6548

ロンドンを拠点に活躍するピアニストの田山正之が一時帰国してリサイタルを聞く。田山は幼少時代をロンドンで過ごし、桐朋学園大学、英国王立音楽院他で学ぶ。

ソナタなどスケールの大きい作品を演奏会のプログラムの中心に持つてくる事が多かったが、最近ようやく発売の運びとなった練習曲集「音の絵」のCD録音をきっかけに、小曲集をシリーズで取りこんできた。今回その中で特に曲想、構成の異なる作品が多く、弾き手、聴き手とも想像力をかきたてられる「音の絵」作品39を後半に据える事とした。

もともとモーツァルトを弾き始めてピアノを弾き始めた私である

「ベートーヴェン弾き」、「フランスもの弾き」など狭い分野を専門、売りにしてきた一昔前の音楽家と比べ、現代のピアニストはフレキシブルに多様な範囲のレパートリーを要求される。英国という場で勉強できる事を機会に多々のレパートリーを学んできたが、それでも最近ラフマニノフの作品を中心に研究、演奏してきたのは、特に彼の性格、音楽ともに共感する要素が大きく、表現したい作品が数多く連なっているからに他ならない。

その後のヨーロッパ音楽、ロマン、近現代と様々な作曲家の著作と出会い、開眼させられたこと、得た経験は計り知れない。数あるピアノのレパートリーの中からひとつの演奏会のプログラムの為に曲を選択する事は喜びでもあり、また贅沢な悩みでもあるが、今年生誕200年で注目を浴びているシューマン、その中でも比較的聴かれる事の少ないソナタ第2番を前半のしめくくり、古典派さつての名曲「悲愴」、日本の誇る現代作曲家武満の「閉じた眼」と合わせてお楽しみ頂ければ大変幸いである。